

活動報告

第18回兵庫県リハビリテーションケア研究大会

三戸呂 克美

去る1月21日(土)、神戸市三宮にある神戸市勤労会館7階大ホールにおいて標記の大会が開催されました。当日は、大寒を過ぎた翌日で寒さも一段と厳しい日でしたが、会場は熱気に包まれ活発な議論が予想出来る雰囲気でした。当日のプログラムは3部構成で進められ、会場の参加者も自由に発言できるようにと企画をされていました。

1部・その人らしい暮らしを実現する～障害者差別解消法施行を追い風にして～《講演会》

2部・その人らしい暮らしを実現する～65歳問題について考える～《シンポジウム》

3部・指定演題～団体活動報告～《兵庫頸損連絡会・他当事者団体全部で4団体が発表》

当日、私は“65歳問題について考える”のシンポジウムにシンポジストとして参加しました。

1部の講演会ではNHK(eテレ:バリバラ)出演の玉木幸則さんが講師で特に「インクルーシブな社会」を目指す事について話されました。大きく取り上げられたのが「合理的配慮」「医療モデル」と「社会モデル」で、教育については自分自身の経験をもとに話されたのは良く理解できた一駒でした。

2部のシンポジウムでは、65歳になると「障害者総合支援法」から「介護保険法」に優先的に移行される。移行する事で、

生活が出来なくなる。ありどのように不安来るのか、また障害を作るにはどうすれば専門職から見た思いした。

私は、障害者と高齢度を比較する事で導論として介護保険です(ADLを増やす)こ支援法の自立は多くも社会生活、社会参そして移行した今で

法に戻りたい、という事を発表して終わりました。

3部では、団体活動報告で「兵庫頸損連絡会」を会員の米田進一さん、山本智章さんの2人に発表していただきました。パワーポイントを駆使しての発表は参加者に会が実施しているイベントなどをアピールする場となり理解していただけたと思います。今後もこのような発表する機会があればどんどん出て行きたいと思います。

ここで少し補足しますと、兵庫県リハビリテーションケア研究大会(リハケア大会と略す)は年に一度、兵庫県リハビリテーション協議会の主催で開かれるもので、協議会に属している専門分野の当事者団体が持ち回りで行う事業です。

因みに属する専門分野とは兵庫県下の、行政(兵庫県、神戸市)、医療系(病院、医師、看護師、PT、OT、ST)、福祉系(介護士、社福士、精神福祉士、MSW、介護支援専門員、相談支援専門員、各種協議団体)、患者団体(当事者の会、親の会、福祉系事業所)、マスコミなどが一堂に会する全国でもまれな組織を持つ団体です。兵庫頸損連絡会も構成団体の1つで現在理事として活動しています。



発表者の皆さん

今まで出来ていた日常移行には多くの問題が無く移行することが出当事者の納得いく生活ばいいのかをそれぞれを発表していただきま

者との違いを2つの制き出せると発表し、結の自立は介護度を減らとにあり、障害者総合の人に支援を受けてで加をすることにあり、も私は障害者総合支援